

## 2023年8月度 検査結果の概要

簡略な説明のため、必要に応じ個表を参考にしてください。

### \* 放流水等水質調査結果【(1)表】

最終排水口での測定結果

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	水田内の濃度では、活着期 500~700 以上、分けつ期 700~1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500~700 ※ (4~8月限定)	220~380	利水期ですが、処理目標値以下で、問題ありません。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	1.0~2.8	処理目標値以下で、問題ありません。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	1~2	処理目標値以下で、問題ありません。
有害物質等 (mg/l)	カドミウム、シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀等の有害金属を調査	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは処理目標値未満の異常のない数値	処理目標値以下で、問題ありません。

※：4月中旬~5月及び7月中旬~8月中旬は 500 mg/L 以下、4月~8月のそれ以外は 700mg/L 以下

自動測定をしている第1期・2期処分場の地下水モニタリング3箇所と第3期処分場の地下水（シート下）を含めた2箇所のモニタリング計5箇所での水質測定結果

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。	6.3~7.4	従来と変わりなく、問題ありません。
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度が高いほど数値が大きい。	0.2~0.6	従来と変わりなく、問題ありません。

### \* 公共用水域水質調査結果【(2)表】

エコパーク下流の、中田川と島崎川のそれぞれ3箇所で同日に採水したものです。なお、中田川については古志茂橋の上流で合流している生活排水の影響を調べるため、その排水口とそのすぐ上流、及び下流から採水しました。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	4~7	利水期ですが、問題ありません。生活排水も問題ありません
塩化物イオン (mg/l)	水田内の濃度では、活着期 500~700 以上、分けつ期 700~1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	29~150 生活排水 22	利水期ですが、問題ありません。生活排水も問題ありません。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	1.3~2.2 生活排水 2.1	従来どおりの値で、特に変化はありません。生活排水も問題ありません。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されており、その窒素の総量を調査	0.55～1.2 生活排水 1.2	従来どおりの値で、特に変化はありません。生活排水も問題ありません。同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も従来と変わりません。
有害物質等 (mg/l)	古志茂橋と乙茂橋で鉛などの有害金属等 13 項目を調査	定量下限値未満 もしくは異常のない値	問題のない値でした。

今回の測定で、生活排水の影響は見られませんでした。

### \* 公共用水域底質調査結果【(3)表】

排水の流れる公共用水域（中田川）の泥に、有害な物質が含まれていないかを測定したものです。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
鉛 (mg/kg)	泥に含まれる鉛とその化合物の総量	10	昨年 15.7、一昨年 14.4、問題のない値でした。
砒素 (mg/kg)	泥に含まれる砒素とその化合物の総量	13	昨年 17.4、一昨年 16.0、問題のない値でした。
総水銀 (mg/kg)	泥に含まれる水銀とその化合物の総量	0.02	昨年 0.04、一昨年 0.03、問題のない値でした。
カドミウム (mg/kg)	泥に含まれるカドミウムとその化合物の総量	0.2	昨年 0.6、一昨年 0.2、問題のない値でした。
銅 (mg/kg)	泥に含まれる銅とその化合物の総量	12	昨年 33、一昨年 15、問題のない値でした。

### \* 農業用水水質調査結果【(4)表】

農業用水として使用している溜め池から採水調査したものです。

代表項目	項目の説明	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。	7.2	問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	3.1	問題のない値でした。
DO (mg/l)	数値が高いほど水に溶解している酸素の量が多い。	2.3	通常より低い値となりました。水の入れ替わりがなく気温が高かったことが原因と考えられます。
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/l)	土壌や水中の有機物分解でアンモニア塩が生成され、更に硝化菌により分解されたもの。	検出されない	問題のない値でした。

### \* 処分場の埋立進捗状況

第3期最終処分場（埋立処理能力937,400m<sup>3</sup>）への埋立量は、8月の埋立量約3,500m<sup>3</sup>で累計埋立量が約439,625m<sup>3</sup>（約46.9%）となりました。